

邊買花供養燃燈佛約爲夫婦仙人者佛也、婦人者羅喉也、今人每至四月八日買花供養并浴佛者、四月八日諸寺各設供養會湯浴佛忌以香花禮拜出錢以灌佛案灌佛經云、日一灌至七灌滅無間罪、○中略

當遠社祭使立日止例、長德三年四月八日辛丑、大神祭使立仍止灌佛、寛治元年四月八日己丑同之、

内裏依神事雖止灌佛院宮不止例、李部王記云、天曆三年四月八日、依山科祭灌佛被止、卽差使奉二條院灌佛布施、

大嘗會年灌佛事、承保元年四月五日記云、大嘗會以前灌佛仍有尋注申了、仁和四年、天祿元年等也、同八日乙亥灌佛也、仁安三四灌佛如例前祀也、

初齋院御禊年雖八日不當神事灌佛停止事、長曆元年寛治四年例也、近代多雖不當神事初齋院年停止、經賴記云、長曆元年四月三日、齋宮良子入大膳職、同八日雖不當神事、依伊勢賀茂齋院禊無灌佛、同十三日丙辰、齋院娟子入右近府、康和三年四月八日、灌佛如常、同十三日、初齋院入御紫野、天永元年四月八日、灌佛如常、同十三日、初齋院入御紫野、

灌佛事、當神事時止之、但院宮不止、又天治元年四月八日、灌佛止、院宮同之、依大神祭也、
内裏穢間灌佛不停止、天長二年四月八日、自去年内裏有穢、

〔公事根源 四月〕灌佛

八日

神事にあたる日は行はれず、灌佛有時は、九日より御神事をはじめらる、御殿の母屋の御れんをたれて、ひの御座を撤して、その跡に山がたをたてたる、佛のむまれたまふけしきを作て、いとにして瀧を落し、色々のつくり物あり、北のかたに机を立て、鉢五に五色の水を入れる、公卿參あつまりて殿上にさぶらふ、女房の布施ども、色々に結びたる花に付て、風流など有を、衣箱のふたに入